

市民に愛される雪舟くん 利用者 総社市人口突破



総社市の人口と同数
6万7705人目の利用者
となった村上二十三さん

総社市新生活交通「雪舟くん」の利用者が、8月21日に、
総社市の人口と同じ6万7705人を達成しました。

「雪舟くん」は、市民の新しい交通手段として平成23年4月から運行を開始。1年5か月目の8月21日、利用者が総社市の人口6万7705人(平成24年7月末現在)を突破しました。これで数字の上では、市民全員が雪舟くんを利用したことになり、これを記念して22日、市役所で記念品贈呈式を開催。



達成日に村上さんを乗せたドライバーの内田さん

該当の利用者となった村上二十三さん(中央三丁目)に市長が、乗車認定証や記念品を贈りました。村上さんは、「雪舟くんはとても便利。買い物や通院に利用しています」と、喜んだ表情で話しました。

村上さんを乗せていたドライバーの内田さんは、「自分が記念となる人の乗車に当たるとはびっくり。これからも安全運転を第一にがんばります」と、優しい笑顔で意気込みを見せました。また、雪舟くん予約センターでオペレーターをしている津組さんは、「皆さんに愛される雪舟くんになればうれしい。どんどん利用してください」と呼び掛けました。

雪舟くんの8月の利用者数は、1日平均216人。市民の足とし



予約センターのオペレーターの皆さん

て欠かせない乗り物となっています。市はこれからも、運転手やオペレーターなど運行を支えるスタッフとともに、1日250人の乗車を目指し、サービスの向上や利用者の拡大に努めていきます。

問い合わせ 人権・まちづくり課安全安心係 (☎92-8249)



宝福寺の方丈で、主役の明石星良に警策を与えるシーンの演技をする住職役の八名信夫さん

そうじやフィルムコミッションが制作中の総社市を舞台とした映画『鬼の城』に、俳優の八名信夫さんが出演。住職役の八名さんは、主役の少女をひとまわり成長させる重要な役どころです。ロケは9月9日、宝福寺で行われ、少女を座禅に誘う場面や応募のあった市民エキストラ42人らとの座禅シーンを好演しました。

映画『鬼の城』は、30分程度のショートムービー。鬼ノ城や宝福寺、備中国分寺などを舞台に、少年と少女のひと夏の出会いの物語を描きます。

八名さんは、自身の演技もさることながら、主人公に演技指導をするなど、プロのオーラを放っていました。また、長時間の撮影の合間には、「あと2カット。



9月の暑い日の撮影に、冬服を着てエキストラ出演した総社東中学校の生徒

撮影や編集などを担当するのは、岡山県立大学や総社商工会議所青年部で組織する「ラブ総社プロジェクト」。エキストラなどは市民が務めた市民参加型の映画。撮影は8月4日からスタートしており、平成25年3月の完成を目指し、5月開催の「総社芸術祭」での上映を予定しています。皆さんの知っている人や場所が登場する映画を心待ちにしてください。



宝福寺の小鍛冶一圭副住職から座禅の組み方を教えてもらうエキストラの皆さん

映画『鬼の城』制作快調 俳優 八名信夫さん 住職役で出演

映画『鬼の城』制作快調

皆さんががんばって」と、エキストラに声を掛け、やさしい人柄で場を和ませました。ロケ後には、「一人でも多くの人に見てもらいたい」と、市民が力を合わせて作る映画を通じて総社を広く知ってもらいたいとの期待を込めて話しました。エキストラで出演した石本哲郎さん(久代)は、「八名さんとの撮影は貴重な経験となった。早く映画を見た」と話しました。